

### ●背景

農業は数ある産業の中でも、事故の発生リスクが高く、発生件数は依然として減少していない。

【全国農業従事者ベースの死亡リスク: 建築業の約2倍、交通事故の約5倍、全産業の9倍】

### ●目的・目標

農作業安全を一丁目一番地の取り組みとし、持続可能な農業の基盤を築くとともに、生産者自らが農作業安全について考え、農作業事故ゼロに向けて取り組む体制の構築。

農作業事故ゼロに向けた取り組みを生産現場にバトンをつなぐ

【農業団体 → JA → 組合員組織 → 経営者・家族】

【農業団体 → JA → 青年部 他 → パート・外国人材】



●結果

ホクレン営農支援室の取り組み

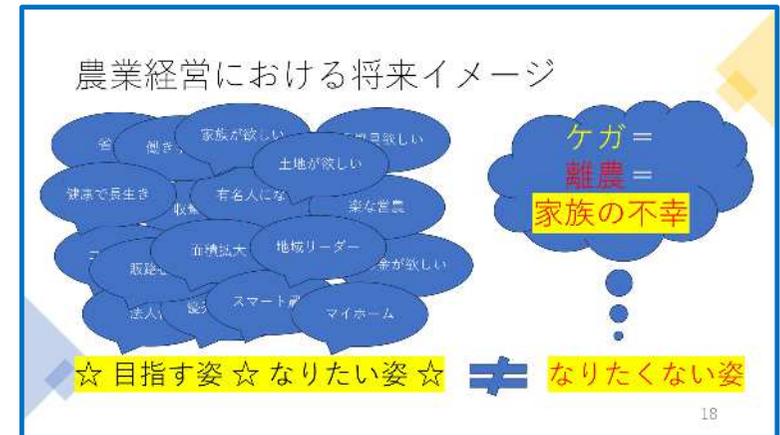
1. 農作業安全研修を開催

期間 令和6年2月～令和8年1月

対象 JA職員・青年部・女性協議会・フレミズ 等

⇒研修を12回実施、約300名が参加

内容 農作業事故の現状や傾向、整理整頓や身近なヒヤリハットなどを通じ、農作業安全の重要性を再確認して頂くための研修。



研修スライド①



研修風景

生産者が自ら農作業安全について考え、  
農作業事故ゼロに向けて取り組んで欲しい。

**研修を受けた皆さんが率先して取り組む！**

**考える☆行動する☆伝える☆継続**

研修スライド②

## ●結果

## 2. 参加者の声

- ⇒知り合いにも事故を起こして亡くなった方がいる。(女性部)
- ⇒最近「ヒヤリハット」をしたばかり、運がよく目を外れたが危なかった。(青年部)
- ⇒事故は運が悪かったなどの感覚を持つ人が多いように感じる。(青年部)
- ⇒本人の意識一つで怪我を減らすことができることを感じる。(青年部)
- ⇒普段経験している「ヒヤリハット」が重大な事故に繋がることを再認識した。(青年部)
- ⇒地域農業を守っていくために担い手世代が活動していくことが重要だと感じた。(青年部)
- ⇒今後は「JAや関係機関と連携しながら具体的な取り組みをしたい」。(青年部)
- ⇒研修を受けて終わりにせずに、家に戻りできることから取り組みたい。(フレミズ)
- ⇒「自分事」として考える必要があると感じた(青年部)
- ⇒「青年部として農作業安全の活動に取り組んでいきたい。」(青年部)      etc.



JA新はこだて・JA新はこだて青年部で農作業安全の取り組みがスタート！！

● 結果

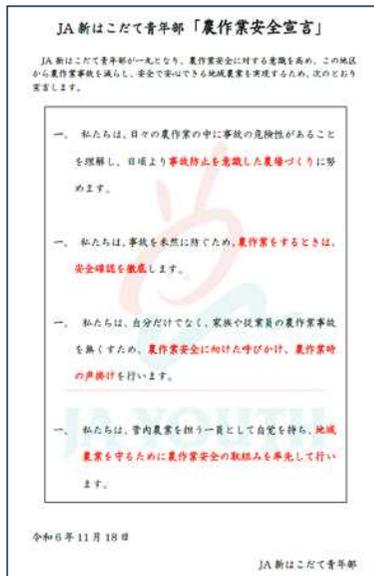
JA・青年部の率先した取り組み(営農支援室はアドバイザー)

1. JA新はこだて青年部にて全体研修会を開催

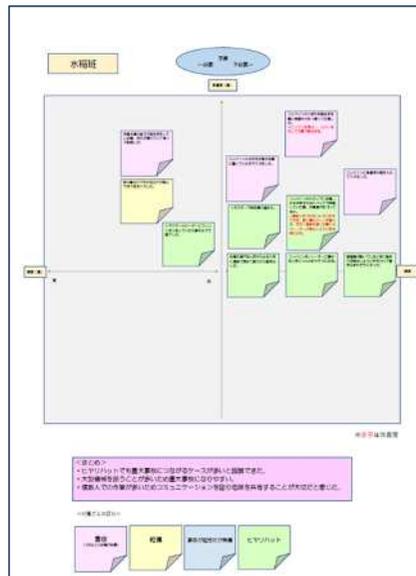
⇒ヒヤリハットや事故経験の共有を行い、リスクマトリクスを作成。

※JA新はこだて広報誌「えすぽわーる」に掲載

⇒青年部が主体的に農作業安全に取り組んでいくことを明記した「農作業安全宣言」を作成。



農作業安全宣言



リスクマトリクス



研修風景

●結果

2. 農作業事故ゼロ運動推進研修会への参加

⇒研修講師を務めていたJAオホーツク網走青年部と交流。

⇒その後、同じ目的を持った盟友同士(JA新はこだて青年部・JAオホーツク網走青年部)により、  
「網走函館JA青年部農作業安全推進協議会」を設立。



①農作業安全ステッカーを活用した実地研修

②優良事例の水平展開

③農作業安全啓発動画の撮影

URL: <https://youtu.be/geVDpE3XZ50>



1日dayworkアプリ(求人者ページにリンク掲載)



①実地研修



シール

②水平展開



●結果

3. その他取り組み

- ⇒JA職員による若手部員向けの農作業安全研修の開催。
- ⇒事故事例を用いたグループワークの開催。
- ⇒雇用主用や従業員用の啓発資材の作成。
- ⇒「短時間農作業安全啓発運動」を地域農業者に紹介。
- ⇒農作業事故ゼロ運動推進研修会の講師を務めた。



啓発資材(従業員用)



啓発資材(雇用主用)

<農作業安全の取り組み継続・道南から全道へ輪を広げたい>

●今後の取り組み

営農支援室として今後も後押し(アイデア創出・他地区橋渡し等)していきたい。